

(7) 微生物相に基づく漁業被害の発生予測・抑制技術の開発

予算

農林水産技術会議委託プロジェクト研究：海洋微生物解析による沿岸漁業被害の予測・抑制技術の開発

結果の概要

赤潮等の環境由来の漁業被害を軽減するために、海洋微生物群のモニタリングによる早期の被害発生予測技術及び海洋微生物群を利用した赤潮被害の発生抑制基礎技術を開発する。大阪府は貝毒原因プランクトンの増減およびアカガイ・トリガイの毒化モニタリングを行う。同時に貝毒解析用試料海水を採水し、共同機関へ提供する。また貝毒発生海域の環境データを観測し、連携機関が構築するデータベースへデータを格納する。大阪湾における2014年春季の貝毒は2013年に次ぐ大規模な増殖が確認された。また2014年は低栄養塩下での増殖が顕著であった。一方で、競合生物と考えられる珪藻類については、過去の傾向と異なり増殖初期には同時に高密度で出現していたが、*A. tamarense* は中層で主な増殖がみられたことから鉛直的な棲み分けがあったと推測された。

担当者

山本圭吾・秋山 諭